

令和4年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立都南小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・自然現象への関心意欲を高めることで、実験だけでなく、その過程である予想や考察、まとめまで主体的に取り組めるようになってきた。
- ・器具の扱い方を丁寧に指導したことで、器具を正確に使うことができるようになり、全体的に技能が高まっている。
- ・実験の楽しさを実感している児童が多い。

(2) 課題

- ・観察・実験の結果から結論を導き出す力、自分の考えを文章で表現する力が十分でない。
- ・知識・技能の定着が十分でないところが見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	目標値より少し上回っている。	/	/
第5学年	目標値よりやや下回っている。	目標値より上回っている。(第4学年時)	/
第6学年	目標値とほぼ同じ数値であるが、若干下回っている。	目標値より下回っている。(第5学年時)	目標値より少し上回っている。(第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・植物や昆虫の育ち方に関する理解が十分でない。 ・電気の通り道に関する理解が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物質・エネルギー領域において、比較しながら考える力が身に付いている。 ・光や音の性質について現象の理由を推測する力が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象への関心意欲は高く、学んだことを学習や生活に生かそうとする態度が見られる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・動物のからだのつくりと運動に関する理解が十分でない。(5年生) ・月と星に関する知識の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想と理由、実験結果とその原因を関係付ける力が十分でない。(5年生) ・条件をそろえて実験をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象への関心意欲は高いが、既習を生かして課題を解決する力が十分でない。(5年生)

<p>が十分でない。(5年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> 電流の働きにおける知識の定着が十分ではない。(6年生) 流れる水のはたらきにおける知識の定着が十分ではない。(6年生) 	<p>力が十分でない。(6年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験から得た結果や結論を説明する力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 結果が出るまで何度も取り組もうとする姿が見られる。
--	--	---

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 生活経験や身近な現象と結論を、関係付けて考えられる指導をする。 説明活動を取り入れる。 理科用語は覚えにくいところがあるので、掲示しておくなど、いつでも見て使えるようにしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の気付きや疑問を整理して、そこから学習問題をつくる過程を丁寧に指導することで、児童が問題をつくることができるようにする。 問題の予想をするときに、根拠となる理由を明らかにする過程を丁寧に指導することで、関係付けて考える力を付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然に親しむ場を大切にし、不思議に思ったことや気付いたことを見つけ、伝え合う体験を丁寧に扱う。 学習したことを児童が確実に理解し、次の学習に生かしたり、生活と結びつけたりできるように、授業の展開を工夫する。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 結論を身近な現象や実生活、既習事項とも結び付けて考えられる指導をすることで、実感を伴った理解をさせる。 説明活動を入れることで、理解を深める。 理科用語をまとめ、いつでも見られるようにする。さらに、それを繰り返し使っていくことで知識を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題の予想を検証するための観察や実験計画を立てさせる過程を丁寧に指導し、児童自身の力で、ある程度実験計画を立てられるようにする。 予想や仮説の内容と観察、実験などの結果を照らし合わせて考えられるように実験の流れを丁寧に振り返るよう指導する。 観察、実験などの結果を基に、事実と考察を分けて自分の考えが説明できるように、考察からの流れを繰り返し指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象との出会いを大切にし、不思議さを見つけたら、気付きを友達と共有したりする体験を丁寧に扱う。 問題解決の流れを最後まで児童自身が考えたり、今までの学習を生かして考えを深めたりできるように、友達と話し合う場を設定する。

